



ENVI5.5 SP1 新機能紹介

HARRIS GEOSPATIAL株式会社



ENVI5.5 SP1の新機能

- サポートOS・データフォーマットの追加
- 機能追加
 - 陰影地形図ツール
 - コンターライン
 - OpenStreetMap®ベクタのダウンロード
- 機能向上
 - ENVI Modelerのアップデート
 - RPCオルソ補正のアップデート
 - ベクタシンボルの保存
 - チュートリアル追加
- APIの追加
 - ENVITaskとルーチンの追加
- ArcGISとの連携
 - サポートバージョン、サポートデータタイプの追加

■ Operating System Support

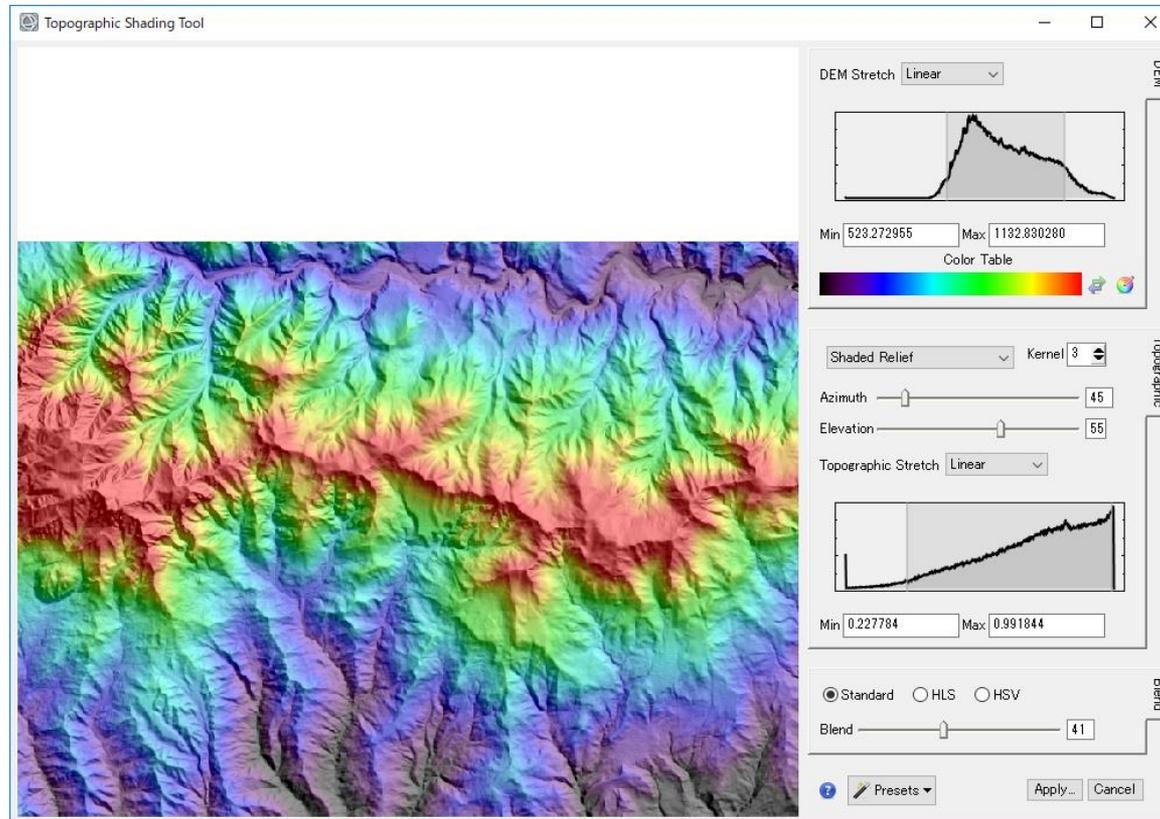
- Windows 8, 10 (64bitのみ対応)
- Linux Kernel 2.6.32, glibc 2.12
- Mac OS X El Capitan(10.11), Sierra (10.12)

■ サポートデータフォーマット

- AISat-1B (アルジェリア)
 - 12メートルのパンクロマチック / 22メートルのマルチスペクトル
- FormoSat-5(台湾)
 - 高解像度2mのパンクロマチック / 4mのマルチスペクトル
- MIE4NITF
 - 時系列対応NITF画像
 - 利用にはENVIのNITFオプションが必要
- PlanetScope reflectance imagery
 - Planet衛星の地表反射率に関する画像データ
- Sentinel-2 メタデータ (アップデート)
 - ESAのネーミングロジックとメタデータの仕様変更に対応

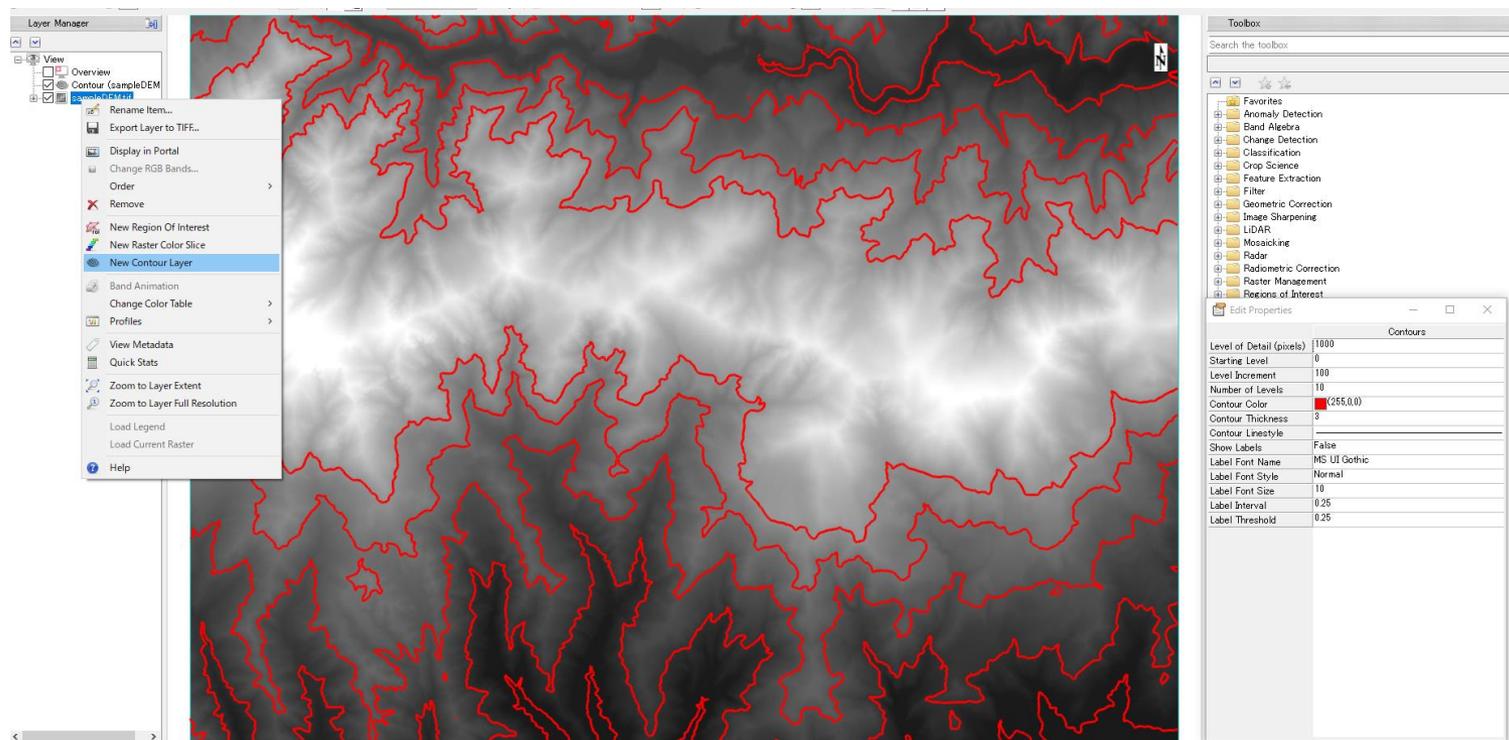
■ 陰影地形図ツール

- 地形の形状を視覚的にとらえやすくする
- DEMのカラー表現と地形フィーチャ（傾斜等）をブレンド
- 結果は入力したDEMと同じ空間解像度でENVI形式にて保存可能



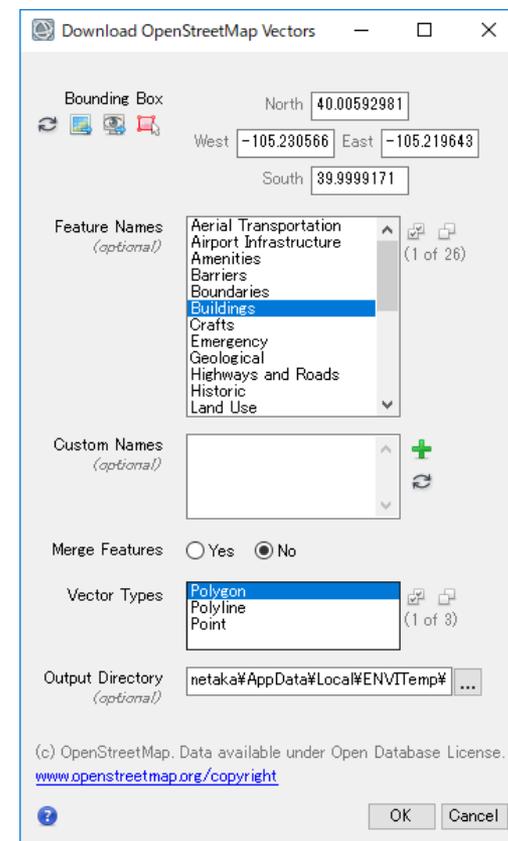
■ コンターライン

- 単バンド画像にコンターラインを表示するための機能が追加
 - 解像度を落としたイメージを利用してコンターラインを近似し、現在のビューに素早く表示 (New Contour Layer)
 - フル解像度の画像からコンターラインのシェープファイルを作成 (Generate Contour Lines)



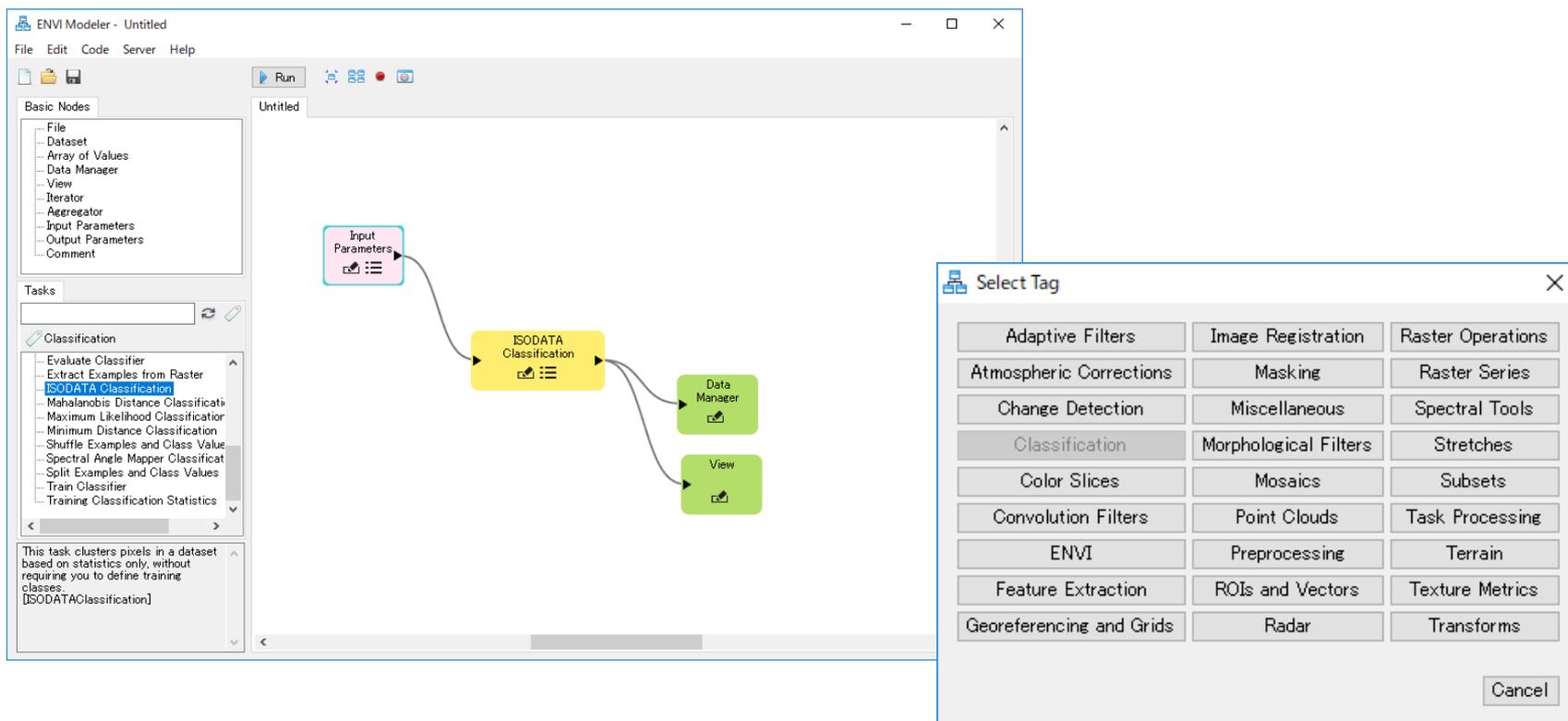
■ OpenStreetMap®ベクタのダウンロード

- メニューバーからOpenStreetMap®のベクタデータをダウンロード・表示



■ ENVI Modelerのアップデート

- ラスタ・ベクタ配列をView / Data Managerノードに接続可能
- Filter by Tagボタンを使用してカテゴリーでタスクを検索
- 表示名・説明・パラメータ順序がinput parameterで設定可能



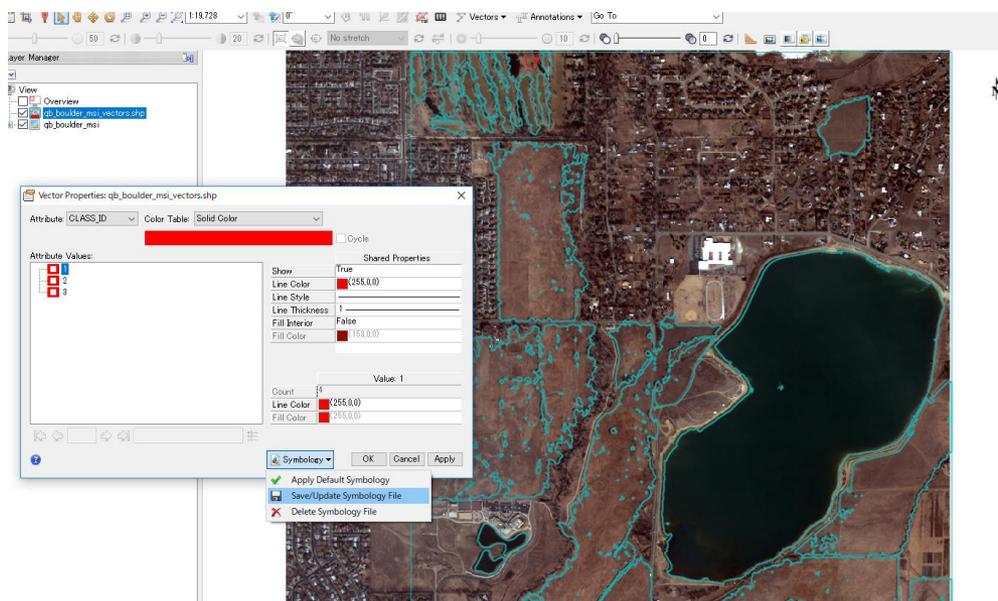
■ RPCオルソ補正のアップデート

- 出力データの投影法の指定が可能
 - RPCオルソ補正ワークフロー
 - RPC Orthorectification Using DSM from Dense Image Matchingツール

- ENVITaskでも同様に投影法の指定が可能
OUTPUT_COORDINATE_SYSTEMというプロパティが新たに追加
 - ENVIRPCOrthorectificationTask
 - ENVIRPCOrthorectificationUsingDSMFromDenseImageMatchingTask
 - ENVIRPCOrthorectificationUsingReferenceImageTask

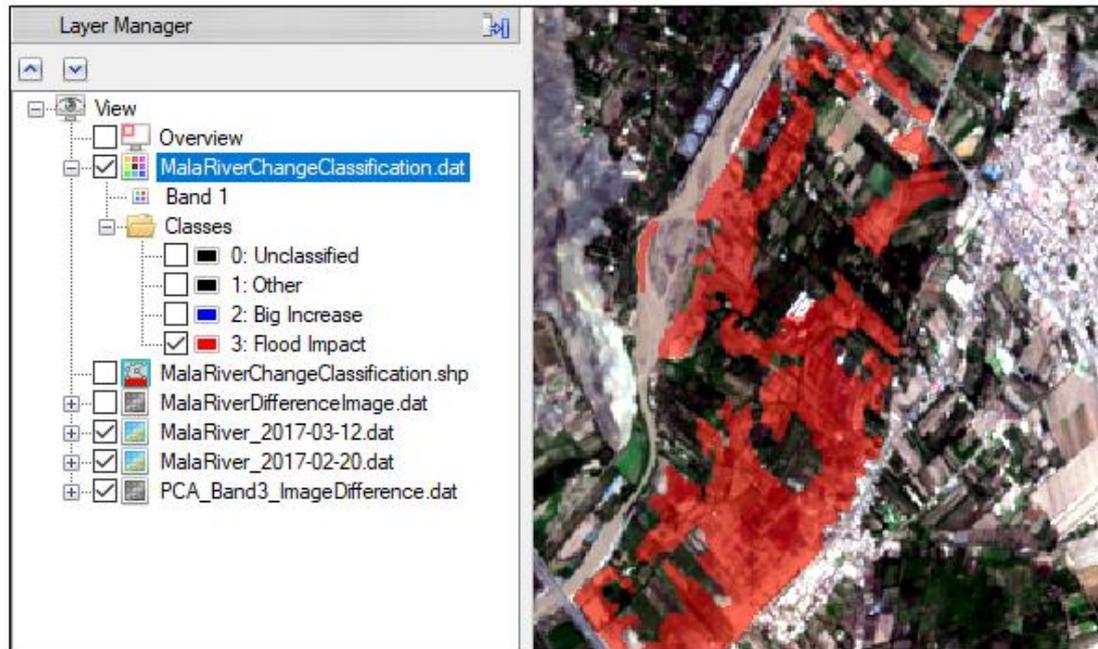
■ ベクタシンボルの保存

- Symbology ドロップダウンリストからシンボルの保存が可能
- ベクターファイルを再度開く際、ENVIは関連するシンボルファイルに定義されているスタイルを適用（存在する場合）
- デフォルトでは、シンボルファイルはベクターファイルと同じディレクトリに書き込まれる
 - ただし、そのディレクトリが読み取り専用の場合、シンボルファイルは補助ファイルディレクトリに書き込まれる



■ チュートリアル追加

- 以下の新しいチュートリアルが利用できる
 - Getting Started with ENVI Tutorial
 - Running ENVI Analytics in ArcGIS Pro Tutorial
 - Sentinel-3 Marine Data Tutorial
- Image Change Detection Tutorialが更新され、使用する画像を2017年に発生したペルーの洪水に関するSentinel-2のものに変更



■ ENVITaskとルーチンの追加

● 以下のENVI Taskが追加

- ENVIBufferZoneTask
- ENVIDownloadOSMVectorsTask
- ENVIExportRasterToCADRGTask
- ENVIFlatFieldCorrectionTask
- ENVIGenerateContourLinesTask
- ENVIGenerateIndexArrayTask
- ENVIGetColorTableTask
- ENVIIARReflectanceCorrectionTask
- ENVITopographicShadingUsingHLSTask
- ENVITopographicShadingUsingHSVTask
- ENVITopographicShadingUsingRGBTask

● 以下のルーチンが追加

- ENVIStretchParameters

■ ArcGISとの連携

- ArcGIS 10.5に加え10.6もサポート
- ENVI Py1.1ではArcGIS中の以下のデータタイプをサポート
 - ENVIRASTERARRAY
 - ENVIROI
 - ENVIROIARRAY
 - ENVIURIARRAY
- ENVITaskがArcMap / ArcGIS Proのスタンドアロンツールとして実装
 - ENVIBuildMosaicRasterTask
 - ENVIDiceRasterByDistanceTask
 - ENVIDiceRasterByPixelTask
 - ENVIDiceRasterByTileCountTask
 - ENVIDiceRasterByVectorTask
 - ENVIROIMaskRasterTask
 - ENVIROIToClassificationTask
 - ENVIVectorAttributeToROIsTask
 - ENVIVectorRecordsToROITask
 - ENVIVectorRecordsToSeparateROITask

お問い合わせ

Harris Geospatial株式会社
技術サポート
03-6801-6147 (東京)
06-6441-0019 (大阪)
support_jp@harris.com